



残暑お見舞い申し上げます。

この夏は、例年にも増して暑い夏となっており、8月に入ってから、京都市内でも連日35℃以上の猛暑日が続いています。お盆を過ぎても当分はこの厳しい暑さが続くことが予測されており、利用者の皆さまには熱中症へのより一層の注意をお願いします。総務省消防庁によると、この夏全国ですでに4万人以上の方が熱中症で病院に救急搬送されたとのこと。これからはいわゆる“夏バテ”の時期です。暑さによる睡眠不足や食欲不振などで体力が減退しているため、熱中症になるリスクはむしろ高まるとも言えます。小まめに水分を摂り、屋外での活動を極力控えるとともに、エアコン等により屋内の温度や湿度を適切にコントロールするなど熱中症予防を心掛けください。



熱中症の豆知識



❗ 高齢者が熱中症になりやすい

熱中症患者の半数以上が65歳以上の高齢者です。

❗ 約半数が屋内で発症

熱中症は意外に屋内でも多く発生しています。その発生割合は屋外とさほど変わりません。

❗ 午前中の発症も多い

最低気温が25℃を超える日には午前中から気温が30℃以上に達することも。「朝の涼しいうちに一仕事」という場合も油断は禁物です。

❗ 「水中毒」にもご注意を

「水中毒」とは、水分の取り過ぎにより起こる低ナトリウム血症による中毒症状を言います。発汗によりナトリウムが失われるため、水分といっしょに塩分を補給することが大切です。

❗ 脳梗塞や血栓症のリスクも高まる

暑さによる発汗で体内の水分が失われると、血液が濃縮され血液の循環が悪化し、脳梗塞や血栓症を起こしやすくなります。既往歴のある方については再発のリスクが高まるため、特に注意が必要です。



真夏の恒例スイカ割り

夏の暑さを叩き割れ～！ この夏も大人気のレクリエーション「スイカ割り」を実施しました。目隠しをして、スイカの前でグルグル回って、一思いにさあどうぞ！ 簡単に見えて案外これが難しい。空振りの連発にみんな大爆笑。最後はお見事一刀両断で拍手喝采。スイカには水分補給だけでなく体を冷やす効果もあるそうです。夏の味覚を舌だけでなく体も使って満喫しました。



なごみ園芸サークル収穫祭



今春に発足したデイサービス和（なごみ）園芸サークル。この夏はミニトマト、パプリカ、バジルが収穫できました。早速これらの野菜を使ってみんなでピザ作りに挑戦です。利用者さんが丹精込めて育てあげた野菜は、初めてにしては小ぶりながらもなかなかの出来栄です。

小麦粉を練った生地にはスライスした野菜とチーズをトッピングし、ピザソースをかけたらオーブンレンジへ。暫くするとオーブンからはイタリアンレストランさながらのいい香りが漂います。焼き上がった“本格ピッツァ”はその日のおやつとしてみんなで美味しくいただきました。

園芸サークルの活動は、今後も本通信でお知らせします。つぎはどんな野菜が獲れるのでしょうか？





ぜにがたまつり

in 2013



七夕（7月7日）の日曜日、銭形企画では夏の全社イベント“ぜにがたまつり”を開催しました。当日は、朝からカンカン照りの陽気で雨の心配は一切なし。施設を移転してから初めての開催ということで、「今回の客足はどうだろう？」と期待と不安が入り混じった心持ちで当日を迎えました。しかし、祭り開始の1時間前くらいから続々とお馴染みの顔ぶれが集まり始め、開会直前にはいつも通りの賑わいを見せていました。

10時45分、特別ゲストのマーチングバンドの演奏を皮切りにまつりがスタート。まずは美味しい屋台でみなさんをおもてなし。いつもはヘルパーやデイサービスで働くスタッフが、今日ばかりはと的屋になりきり威勢のよい掛け声で自慢の品を売り込みます。私たちもいただきましたが、どのメニューも本格的な出来栄えに自画自賛。

施設の2階では、今回初めての試みとして福祉用具の展示コーナーを設置しました。日頃お付き合いのある福祉用具業者の株式会社コストトレードさん（左京区）の全面協力により様々な福祉用具や生活便利グッズを展示し、来場者のみなさんにご覧いただきました。

まつりの後半は、若手スタッフが一生懸命練習したダンスを披露。ARASHIの「ハピネス」に乗せた元気いっぱいのパフォーマンスに会場のテンションは最高潮に。そして、まつりの締めくくりは、毎回恒例のビンゴゲーム大会です。特賞「ダイソン・エアマルチプライヤー（羽なし扇風機）」のほか、商品券、家電、雑貨、おもちゃ、お菓子など思い出と一緒にいろいろなお土産をみなさんに持って帰っていただきました。

今年は例年以上に暑い夏で、秋口まで猛暑日が続くそうです。この夏がみなさんにとって楽しい季節となることをスタッフ一同願っています。炎天下の中ご来場いただき誠にありがとうございました。



Column

今年も早いもので半分以上が過ぎ、またヘルパー泣かせの酷暑の夏がやって来ました。汗をぶるぶるかいて訪問先から帰ってくるヘルパーたちのために塩入りの麦茶を冷やしたり、アイスクリームをストックしたりと、この季節は現場スタッフの体調に気を配ることが事務所の重要な仕事となります。「昼ご飯しっかり食べた?」、「冷たいものが冷蔵庫に入ってるよ。」などとスタッフ同士がお互いを気遣う姿を見ていると、なんかいいなと少しうれしい気持ちになりました。

在宅のヘルパーは、施設の介護職員などとは違い、通常は現場で一人仕事を行うことや直行直帰のいわゆる登録ヘルパーが多いことなどから孤独な仕事といわれる嫌いがありますが、うちの会社では、とにかくヘルパー同士の仲が良く、いつも事務所は和気藹々とした雰囲気です。

職場の親しい人間関係を表す言葉に『同じ釜の飯を食う』というのがあります。古き良き時代の日本の企業文化を示す言葉として使われがちなこの言葉ですが、私は会社のあるべき姿を示唆する永久不変の言葉のように思います。単に利益を分け合うという意味合いだけではなく、同じ目的や使命に沿って行動する、お互いを労い、助け合うといったように、この言葉が表現しているものは会社の機能そのものだと思います。「飯を食う」の前にある「同じ釜」という表現が持つニュアンスに何かしらの心強さや頼もしさを感じます。

仕事柄、昼の休憩時間や終業時間がまちまちですれ違いも多く、なかなかゆっくり顔を合わすことが少ないヘルパー同士。それでも自分が出かけた後に汗だくで帰ってくるであろう同僚を思い、ひと時の涼を取ってほしいという夏ならではの心配り。そこに私たちの会社に根付く『同じ釜の飯』文化を見たような気がします。

(執筆：上原啓輔)

Information

ホームページがあるんです！

<http://www.zenigata-kikaku.jp>

銭形企画のホームページをご存知ですか？ 利用者アンケートの詳細や第三者評価結果、『銭形通信』のバックナンバーがご覧いただけます。ぜひ一度アクセスしてみてください。グーグルやヤフーから「銭形企画」で一発検索できます。



『銭形通信 Vol.22 夏号』

発行元: (有) 銭形企画 〒600-8357 京都市下京区黒門通五条下ル柿本町 594 番地 33

T E L: 075-353-4880 (代) F A X: 075-353-4891 E-mail: mail@zenigata-kikaku.jp

編集: 上原 啓輔 (うえはら けいすけ) 高田 暁仁 (たかだ あきひと)

「銭形通信」は、(有) 銭形企画の情報公表の一環としてご利用者様ならびに関係機関のみなさまにお渡ししております。